

肢体不自由特別支援学校における、
重複障害のある児童が保有する感覚を使って
主体的に学ぶ生活単元学習の指導の工夫

一見え方・感じ方・考え方の視点で
活動を捉え直す授業づくりを通して一

長期研修員 井草 理江

研究の構想

目指す児童像 保有する感覚を使って、見通しを持ち主体的に学ぶ姿

やることが分かる

近づいて見る
じっと聞く
手を出して触る

自分の気持ちを
伝える

見る・聞く・触る活動

- ・見る教材
- ・聞く教材
- ・触る教材

自然な気持ちの流れ

- ・児童の動きや意思表示を待つ
- ・学習内容等に
自分で気付ける工夫

児童のペースに合わせる

繰り返しして積み上げる

状況の捉え方の把握

- ・視覚、聴覚、触覚
- ・体感
- ・捉える順番

児童の見え方・感じ方・考え方の視点で活動を捉え直す

実態

肢体不自由・知的障害
さらに、視覚障害を
併せ有する児童

- ・活動に見通しが持てない。
- ・不安で見られない、触れない。
- ・豊かな思いがたくさんあるが、
表出手段が少ないので、伝わらない。

重複障害のある児童が
見通しを持って、
主体的に学ぶためには
どのような
授業をしたらよいのか？

授業実践 小学部3・4年 生活単元学習

秋の旅行 「でんしゃにのろう れすとらんでいただきます」

児童の見え方・感じ方・考え方の視点で活動を捉え直す

「電車に乗る」活動を捉え直した結果

1. 「ピンポンパンポン」という効果音と「間もなく1番線に上り列車が参ります」等のアナウンスが聞こえる。
2. 間
3. ガタンゴトンという電車の音が左から少しずつ大きく聞こえ、電車が近づいてくる。電車の正面が見える。
4. 電車の音が大きくなると同時に風を感じ、目の前を電車が通る。電車の側面が見える。
(一部抜粋)

保有する感覚を使った見直しを持つための活動



- ① 効果音やアナウンスなど、駅のホームの実際の音^音を聞く。
- ② 電車が目の前を通過するタイミングで教師がうちわであおいだ風^風を感じる。
- ③ 電車の動画やテーマ曲を見聞きしながら、揺れ^{揺れ}を感じる。



児童のペースに合わせる

見る・聞く・触る活動



ホームの音 ブラックパネルシアター

光っていて見やすいな



電車の模型

自然な気持ちの流れ

- ・言葉掛けや教材提示をして待つ。
- ・教材の準備を見せる。
- ・テーマ曲等をかける。



児童の様子



アナウンスに気付くと、動きを止めて、耳を澄ました。次の音を聞いて笑顔になった。



じっと聞くことから、少しずつ視覚、触覚も使うようになり、複数の感覚を使って学ぶ様子が見られた。

見る・聞く・触る等の繰り返し、旅行当日の「この音知っているよ」という気付きや、電車が来たときの風、電車の揺れを楽しむことにつながったと感じた。



授業者から

繰り返しながら新しい学習を増やしていくことで、学習内容が伝わったと感じた。不安で距離を取っていた児童が、教材に近づきたいと意思表示をするようになった。

持ち帰ってきた思い出絵本を一緒に見ました。家族が話しかけ、会話が弾みました。



保護者から



成果 児童が保有する感覚を使って学習を繰り返したことで、やることが分かり、見たい、聞きたい、触りたいという気持ちになって、自ら学ぶ姿が見られた。

課題 児童の表情や視線等から、次の活動に移るための言葉かけや教材提示のタイミングを判断し、児童のペースにより合わせることが課題として残った。

提言 児童の見え方・感じ方・考え方の視点で活動を捉え直し、児童が「分かった」「やってみよう」という気持ちで活動できる授業をしましょう。